

## 道徳教育充実のための改善策について —道徳の目標・内容・評価を中心に—

### 1 道徳の目標について

#### <これまでの主な意見（抜粋）>

- ◇ 道徳教育の目標が何か明確でない。道徳教育とは何を持って身についたと判断されるかについて明確にする必要がある。仮に規範意識や挨拶、礼儀などがそれであれば、学習指導要領にそうわかりやすく書くことで目標を明確にすべき。
- ◇ 道徳教育については、地域間、学校間、教師間の差が大きい。例えば、道徳的価値観を教え込むべきと考える教員もいれば、一つの道徳的価値について多様な考えを出させ、話し合う時間と考える教員、あるスキルについて行為としてできるようになることを重視する教員もいる。道徳教育に関する理解の違いを修正していくことが必要。

#### <検討の視点（案）>

- 道徳教育で目指すもの、道徳の時間で目指すものについて  
—児童生徒にどのような力を育むか—

道徳教育は、学校の教育活動全体を通じて、道徳性を養うこととされており、道徳教育の要である道徳の時間においては、道徳的実践力を育成するものとされている。

例えば、

- ・ 道徳教育で目指すものと道徳の時間で目指すものとの関わりをどう考えるか
- ・ 目標をより具体的で明確なものにするか
- ・ 発達段階を考慮した示し方を工夫するか

など

## 2 道徳の内容について

### <これまでの主な意見（抜粋）>

#### （道徳の内容について）

- ◇ 現行の道徳の内容項目については価値観の構造化が必要。
- ◇ 価値の構造化について国レベルで示すことは適切ではない。
- ◇ 内容項目については表現が必ずしも明確でないところがある。
- ◇ 内容項目については、国際関係に関わることなどもう少し補うべきところがある。
- ◇ 現代の子供たちの変容を踏まえたリアリティあるものとする必要がある。
- ◇ 善悪の判断基準を身に付ける上でも、日本古来の伝統行事の意味するところなどについてきちんと教育することが大事。

#### （指導方法について）

- ◇ 子供たちにとって、道徳の授業を面白いと感じるには様々工夫が必要。偉人伝や読み物を読むというのは、国語の授業との違いがよく分からないということも出る。それによって何を学ばせたいのかということが明確でないと、その効果も生まれにくいのは当然のこと。ディスカッション能力を上げていくためには、今までの道徳の教え方からかなり大幅にその指導方法を変えるということを検討していくべき。
- ◇ 小学校と中学校の実態の違いを踏まえて、発達段階に即した授業へと差別化を図る必要。例えば、中学校段階は、生命倫理、環境倫理、情報倫理などの教育課題に応じた内容も積極的に生かすなど、学習内容や方法のタイプについて差別化を図っていくことも選択肢の一つ。
- ◇ 特に中学校では道徳教育の受け止めが悪い。中学生の段階になると、単にこうあらねばならないというよりは、討論や討議、話し合いなどを通じて、答えがない課題について考えさせることが大事。
- ◇ ある意味での技法を身に付けることができるように配慮する必要。例えば、コミュニケーションが大事ということがわかるだけでなく、自分の思いを伝える、相手の思いを酌むために必要な技法も身に付けることができるようにすることが大事。
- ◇ 「道徳の時間」「特別活動」「総合的な学習の時間」の3領域の内容のすみ分けがあいまいになっている。
- ◇ 3つの領域がそれぞれの特徴を持って存在していることが重要。

#### （品川区の市民科について）

- ◇ 市民科は、社会の中の個として人間がどう生きるべきかという視点から「道徳の時間」「特別活動」「総合的な学習の時間」を統合したもの。子供たちを取り巻く様

々な課題を解決するために、人としての有りようを①個の内面、②個と集団、③個と社会という視点から整理し、児童生徒に育てるべき資質を明確化。その上で、実践的に活用できる態度や行動様式、対処方法として身に付けさせる能力を設定し、義務教育9年間で計画的に取り組んでいる。

「道徳の時間」では、子供の内面に関わることを、長期的な展望、綿密な年間指導計画に基づいて実施するのがコンセプトだと思うが、品川区の市民科では、道徳性を訓練と実践を通じて獲得させている。基本的な道徳、例えば、命の尊厳や親への敬愛などの価値、日本社会における社会的な習慣・行為の習得については、理屈ではなくて徹底的に教え込むことを基本にしている。

市民科の指導には「型」があり、教科書を作っているのが、教員や学校の裁量の部分は少なくなっているが、市民科は教科以外のすべての教育活動を統合したものであり、その指導計画の作成には学校が膨大なエネルギーを費やしている。

◇ 市民科の取組に関しては、道徳的実践力を育てる道徳の時間の内容が薄いのではないか。心情的な部分の育成も重視すべきではないか。

### <検討の視点（案）>

#### ○ 道徳の内容項目について

－道徳の内容項目の見直しが必要か－

（ 道徳の内容項目については、道徳教育全体で扱うこととされ、特に道徳の時間では相当する各学年において取り上げることとされている。 ）

例えば

- ・ 新たに取り上げるべき内容や更に強調すべき内容はあるか  
（社会を構成する一員としての生き方に関することなど）
- ・ より具体的に内容を示す必要があるか
- ・ 発達段階の考慮については現行のとおりでよいのか  など

#### ○ 道徳の時間の指導の在り方について

－目標や内容の改善の方向に伴って、指導の在り方を見直す必要があるか－

（ 道徳の時間においては、「道徳的実践力」の育成を目標に、読み物資料などを通じて道徳的価値の自覚や自己の生き方についての考えを深める指導などが行われており、「道徳的実践」の指導については、特別活動等において行われることとなっている。 ）

例えば、以下のような観点についてどのように考え、どのような指導を行うか。

- ・ より発達段階に留意した指導
- ・ 体験活動や具体的な実践等を取り入れた道徳的実践の指導
- ・ 実生活の場面における道徳的実践のための討論などを重視した指導
- ・ 「特別活動」をはじめとする他の教科等との連携を強化した指導  など

### 3 道徳の評価について

#### <これまでの主な意見（抜粋）>

- ◇ 評価に当たっては長期的な視点での見とりが重要であり、数値的な評価や個々の言動を評価するようなやりかたは不適切。意欲や可能性を引き出すような記述による評価は可能。
- ◇ 評価は子供たちの成長の振り返りや指導計画・指導方法の改善のために必ず実施すべき。指導要録の「行動の記録」をうまく活用し、子供たちがどう伸びていったかを積極的にプラス面で評価すべき。
- ◇ 教員に十分な専門性がない、理論的に詰められていない状態であればこそ、評価については慎重に考えるべきであり、時間をかけて議論すべき。
- ◇ 指導要録の「行動の記録」の評価の観点が何に基づいているのか整理が必要。

#### <検討の視点（案）>

- 道徳教育の評価、道徳の時間の評価について  
ー目標や内容の改善の方向を考慮して、評価の在り方を見直す必要があるかー

〔 児童生徒の道徳性については、常にその実態を把握して指導に生かすよう努める必要がある。ただし、道徳の時間に関しては、数値などによる評価は行わないものとするとしている。 〕

例えば

- ・道徳教育における評価と道徳の時間における評価の関わりをどう考えるか
- ・どのような方法による評価が適当か
- ・評価の観点や具体的な基準についてどう考えるか など